

第14回 茨城フットケ抄録 (2016.02.18)

●一般演題

『筑波メディカルセンター病院における Limb Salvage への取り組み』～当院における現状と課題～
筑波メディカルセンター病院 リハビリテーション療法科 三上 翔太 先生 (理学療法士)

【要旨】

今日では生活習慣が欧米化し、さらに高齢者人口や糖尿病罹患率の増加と相まって、動脈硬化性疾患を主体とした末梢血管疾患が増加傾向である。特にその重症例である CLI (critical limb ischemia) は下肢の大切断の原因となり得るものであり、予後は不良である。当院では、PAD (peripheral arterial disease) に対し、EVT (endovascular therapy) を積極的に行っており、またリハビリテーションも Limb Salvage・Gait salvage を目的に運動指導や義士装具士と連携を取り合い、フットウェアを提供している。そこで、当院における現状と課題を報告する。

『当院におけるフットケア外来の現状と今後の課題』

牛久愛和総合病院 看護師 (糖尿病療養指導士) 佐藤 美穂 先生

【要旨】

当院では、糖尿病療養指導士である看護師がフットケア外来において糖尿病患者のフットケアを実施している。今回、フットケア外来の現状を明らかにし、フットケア外来の充実を図るために改善点を明確化した。

●特別講演

『糖尿病性難治性潰瘍に対する組織移植術の応用』

東京女子医科大学 形成外科 教授 櫻井 裕之先生

【要旨】

近年、高齢化社会、生活習慣病蔓延を背景に、形成外科診療において皮膚難治性潰瘍患者に対する治療の比重が増大している。糖尿病性下肢難治性潰瘍はその代表疾患であるが、感染、血行障害、神経障害、局所的環境など様々な要因があり、正確に病態を把握し創傷治癒遅延の原因を排除することが治療の主体である。しかし、大きな組織欠損を生じてしまった病変に対しては、健常な組織を移植する以外に治癒に導けない場合もある。元来形成外科は、欠損に対する組織移植を専門とする外科領域であり、移植する組織、移動方法も多岐にわたる。今回、われわれが行っている各種組織移植術の実際を紹介するとともに、糖尿病性下肢難治性潰瘍に対する応用に関して報告する。